

「vNOTES（ブイノーツ）」をご存知ですか？

当院産婦人科では、患者さんの体への負担を少なくする「低侵襲手術」に積極的に取り組んでいます。近年、医療技術の進歩により、手術は「病気を治す」だけでなく、痛みをできるだけ少なくし、回復を早めることも重視されるようになってきました。そのため、患者さん一人ひとりの病気や体の状態に応じて、できるだけ負担の少ない手術方法を選択できるよう努めています。今回は、1年前から当院で本格的に導入し、これまでに約50件の実績を重ねている先進的な手術法「vNOTES（経腔的腹腔鏡手術）」についてご紹介します。

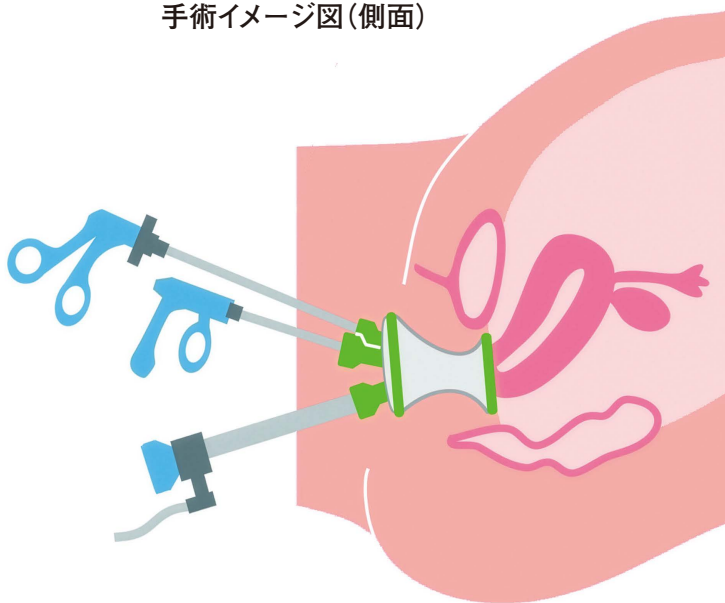
vNOTESってどんな手術？

従来の「腹腔鏡手術」は、お腹に3〜4か所の小さな穴を開け、カメラや手術用の器具を挿入し、モニター画面を見ながら行う手術です。お腹を切る開腹手術に比べると、体への負担は少ないもの

の、お腹の表面には小さな傷跡が残ります。一方、新しく登場したvNOTESは、お腹の皮膚を切ることなく、「腔」という体にもともと備わっている通り道からカメラや手術用の器具を挿入して行う手術です。お腹の内側から手術を行う

ため、お腹に傷跡が残らないことが大きな特徴です。（図1）また、お腹に傷がでないため、手術後の痛みが少なく、回復が早いことも大きなメリットです。体への負担を抑えられることから、早期の日常生活への復帰や社会復帰につながることも期待されています。

図1 vNOTESの手術イメージ図（側面）



患者さんにとっての3大メリット

- 1. お腹に傷が残らない（美容面のメリット）**
お腹の皮膚を切らないため、傷跡が残る心配がありません。
- 2. 手術後の痛みが少ない**
お腹の筋肉や皮膚を傷つけないため、従来の腹腔鏡手術と比べても痛みが少ないのが特徴です。
- 3. 回復が早く、早期の退院・社会復帰が可能**
お腹に傷がでないため回復が早く、お仕事や家事への復帰がスムーズです。



産婦人科部長
田嶋 公久

どんな病気が対象になるの？

当院では、主に次の3つの良性疾患に対して、患者さんの状態や病気の程度を総合的に判断した上でvNOTESによる手術を行っています。

① 子宮筋腫や子宮腺筋症（子宮全摘術）

子宮に良性の腫瘍ができる「子宮筋腫」や、子宮の壁が厚くなる「子宮腺筋症」は、月経痛や月経量の増加、貧血などを引き起こすことがあります。症状が強く、薬による治療で十分な改善が見られない場合には、子宮全体を摘出する手術をvNOTESで行うことができます。（図2）

② 卵巣腫瘍（腫瘍核出術・付属器切除術）

卵巣にできる良性の腫瘍で液体や脂肪がたまって腫れる病気で、腫瘍が小さい場合は、無症状のことが多く、検診など受診した際に偶然発覚されることも少なくありません。vNOTESでは、腫瘍の部分だけをくり抜いたり、腫瘍を含む卵巣や卵管を摘出する手術を行うことができます。（図2）

③ 子宮脱・骨盤臓器脱（腔断端挙上術）

加齢や出産などにより、子宮を支える組織や腔が緩んで子宮や周囲の臓器が下がってくる病気で、vNOTESでは、下垂した子宮を摘出した後、腔を内側から支えて固定することで、臓器が下がりにくい状態にします。（図3）

知っておきたい注意点

多くのメリットがあるvNOTESですが、すべての患者さんに適した手術というわけではありません。過去の手術などが原因でお腹の中に強い癒着（組織どうしがくっついていて状態）がある場合や、腫瘍が非常に大きい場合、また悪性腫瘍（がん）の疑いがある場合などは、安全を最優先に考え、従来のお腹から行う腹腔鏡手術や開腹手術を選択することがあります。

担当医からのメッセージ

「お腹の手術」と聞くと、不安や怖さを感じる方も多いと思います。vNOTESは、お腹に傷をつくらず、体への負担を軽減できる新しい手術方法です。一方で、すべての患者さんに適しているわけではなく、病気の種類や進行の程度、これまでの手術歴などを総合的に判断し、適応を決定しています。

当院では、患者さん一人ひとりの病気や体の状態を十分に評価したうえで、安全で適した手術方法をご提案しています。「できるだけ傷を残したくない」「早く日常生活に戻りたい」とお考えの方は、まずはかかりつけ医にご相談ください。ご紹介いただいた医療機関と連携しながら、安心して治療を受けていただけるようサポートいたします。

当院は地域医療連携を推進しているため、初めて受診される際は、原則として他の医療機関からの「紹介状」が必要です。紹介状をお持ちでない場合は、診療費とは別に選定療養費をご負担いただきます。

図2 女性生殖器のイメージ図（正面）

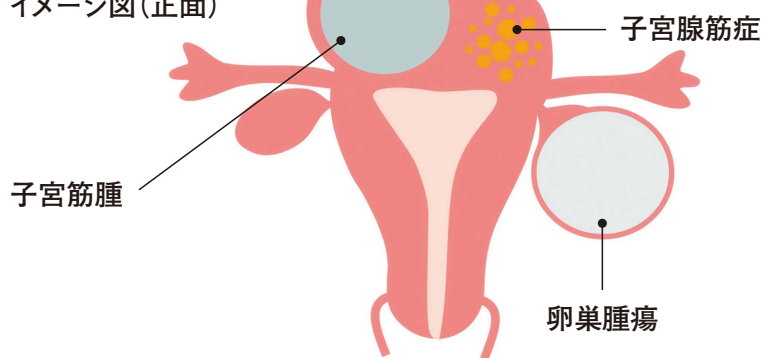


図3 子宮脱のイメージ図（側面）

